

Musashino Journal^{Spring 2024} vol.38

武蔵野大学大学院
武蔵野大学
武蔵野大学高等学校
武蔵野大学中学校
武蔵野大学附属千代田高等学院
千代田国際中学校
武蔵野大学附属幼稚園
武蔵野大学附属有明こども園
武蔵野大学附属慈光保育園

特集
創立100周年イヤー
学校法人武蔵野大学のグランドデザイン
―未来社会を見据えて―

学校法人武蔵野大学報

響き合って、未来へ。



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University E.F.
学校法人 **武蔵野大学**

表紙の風景

武蔵野キャンパス6号館の雪頂講堂。1986（昭和61）年に創立60周年を記念して建てられたもので、授業だけでなく学内外の様々な行事が行われている。ここには学祖高楠順次郎博士が文化勲章を受章した際に着用していた当時の服装などの展示があり、学祖の銅像も設置されている。創立100周年を迎えた2024年。学祖はこれからも学び舎に集う園児、生徒、学生たちの未来を見据え、いつもの場所で優しく見守っている。

カメラマンより

歴史ある武蔵野大学。創始者にしっかり見守られながら、何人の学生がここを旅立っただろう。歴史が刻まれた展示が素晴らしい。

表紙撮影：平野太呂

学校法人 **武蔵野大学**

Musashino Journal
vol.38

2024年4月1日

学校法人武蔵野大学 広報課

〒135-8181
東京都江東区有明三丁目3番3号
TEL:03-5530-7403
E-mail:kouhou@musashino-u.ac.jp
<https://www.musashino-u.ac.jp>

2 特集

創立100周年イヤー
学校法人武蔵野大学の
グランドデザイン
—未来社会を見据えて—

学校法人武蔵野大学
理事長 長野 了法

- 4 創立100周年イヤー到来！
- 5 前野 隆司 ウェルビーイング学部長に聞く
ウェルビーイングの専門家として
みんなの幸せをデザインする
人材を育成したい
- 8 世界に広がり、輝く
Happiness Creators
- 10 「あの夏を取り戻せ」
プロジェクトの舞台裏
- 12 武蔵野大学 中学校・高等学校
保護者と学校をつなぐ新たなチャレンジ
- 14 武蔵野大学附属千代田高等学院
「藤華祭」でさまざまな経験を積み
- 16 武蔵野大学附属幼稚園
年中組がパンケーキ屋さんを開催
- 18 武蔵野大学附属有明こども園
園児全員でお祝いした「合同誕生会」
- 20 武蔵野大学附属慈光保育園
にじいろ通信
- 21 武蔵野大学同窓会むらさき会
学校法人武蔵野大学
創立100周年記念募金への
寄付贈呈式
- 22 NEWS & TOPICS
- 23 『学問の地平から』
教員が語る、研究の最前線
- 24 建学の精神
仏教の叡智を世界に開く
—学祖・高楠順次郎博士の偉業—
武蔵野大学
ウェルビーイング学部 教授・
大学院仏教学研究科長
下田 正弘
- 25 学校法人武蔵野大学後援会
- 28 表紙の風景
カメラマンより

読者アンケートに
ご協力ください。
右のQRコードより
アクセスできます。



創立100周年イヤー

学校法人武蔵野大学の
グランドデザイン
—未来社会を見据えて—

響き合って、未来へ。



2024年、学校法人武蔵野大学は創立100周年を迎えました。
受け継がれてきたこの100年の足跡を振り返るとともに、
未来社会を見据え、教育機関として目指す姿とは——。
本法人が目標とするグランドデザイン
(あるべき姿の基本的な方向性)について、
長野了法理事長に聞きました。

設立時の強い信念のまま
受け継がれている建学の精神

国際的な仏教学者の学祖・高楠順次郎博士が、武蔵野大学の前身である武蔵野女子学院を創立したのは1924（大正13）年5月。甚大な被害をもたらした関東大震災の翌年のことでした。未曾有の災害により社会が疲弊している状況の中で、教育によって社会を立て直そうと強く決意されたのです。高楠博士は「仏教の根本精神を基礎とした人格教育」を教育の目標として掲げました。人格向上を目指して、人を育てていく。その建学の精神は創立から100年を経た今も、変わることなく受け継がれているといえます。100年前と現代とは、社会のありようには大きな変化が生じました。創立校である武蔵野女子学院も、その後は高等女学校を経て現在の中学校・

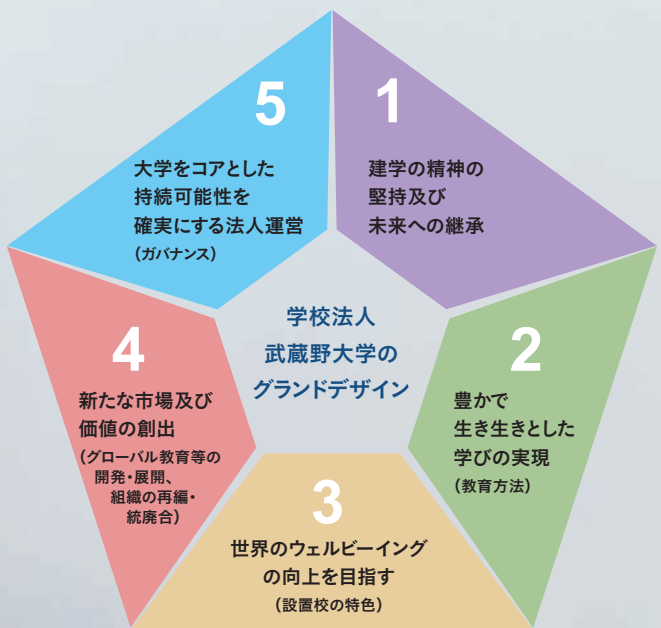
高等学校となり、さらに短期大学や大学の開設そして男女共学へと変遷を遂げてきましたが、仏教精神を根幹とした人格育成を目指す教育機関であるという点は変わりません。

時代の流れとともにどれだけ社会が変わろうとも通底する普遍性の高い建学の精神と、それを先人たちが守り続けて来たからこそ今日があるのだと思っています。

ウェルビーイングの概念を学び、
「世界の幸せをカタチにする。」

創立100周年を記念して、学校法人武蔵野大学では改めて長期計画の基礎となるグランドデザインを再構築し公開しました（下図参照）。

グランドデザインは、これからの未来社会を見据え、設置校の大学や中学校・高等学校などのあるべき姿の基本的な方向性を示すものです。本法人の



根底に常にある建学の精神とともに、持続可能性を確実にする法人運営という観点も重視した指針とすべく策定しました。

グランドデザインに示した五つの指針の中で、本法人の教育的な特徴を示しているのが「世界のウェルビーイングの向上を目指す」です。

仏教の根本思想は「縁起」です。全てのものは移り変わり関わり合う中で、他を省みない自己中心の世界はあり得ないと教えます。とりわけ浄土真宗は「あらゆるものが救われなければ自らも覚者と成らない」と誓われた阿弥陀仏の「自利利他円満」の世界が目的であり、「他者の幸せを考えなければ、自分の幸せもありえないし、他者の幸せを願いながら自分をおろそかにすることもありえない」との教えは、本学の求めるウェルビーイングの概念に親和します。

武蔵野大学のブランドステートメントに込めた「世界の幸せをカタチにする。」という目標の実現には、本学が目指すウェルビーイングの向上が欠かせません。

2024年度に武蔵野大学は世界で初めてのウェルビーイング学部を開設します。ウェルビーイングという概念を学術的に探究しながら、武蔵野大学ならではのHappiness Creatorを輩出する動きを加速させてまいります。

教学との両輪で
持続可能性を確実にする

100年にわたって継承してきた建学の精神を20年、50年後、さらには100年後へとつないでいくには、確実性のある安定した法人運営が不可欠です。経営基盤が揺らいでしまえば、質の高い教育の提供に支障が生じかねません。教育という理想と、経営という現実の両輪をうまく回していくことが大切です。

本法人では「改革とチャレンジにより成長する教育研究機関になる」という基本的な考え方に基づいて、教学資源を最大限に活用し、持続可能性を確



学校法人武蔵野大学
理事長
長野 了法

前野隆司 ウェルビーイング学部長に聞く

ウェルビーイングの専門家として みんなの幸せをデザインする 人材を育成したい

世界初！ウェルビーイングを 学び究める学部が誕生

2024年4月、世界初のウェルビーイング学部が武蔵野大学に誕生しました。

ウェルビーイングとは「肉体的にも精神的にも社会的にも良い（Well）状態（being）」を表す言葉で、1948年に世界保健機関

（WHO）が掲げた憲章の前文の中で「健康」を定義する言葉として使われました。日本語の「幸せ」の概念はハッピーよりもウェルビーイングに近いといえるでしょう。

今回発足したウェルビーイング学部は、このようなウェルビーイングの概念を学び、実践するための学部です。世界中の幸せを形づくる根幹となる倫理や哲学に加えて、ウェル

ビーイングを実現するための科学的な知識や技術、コミュニケーション能力などを身に付け、やがては専門家として個人や社会のウェルビーイングに貢献することを目指します。

武蔵野大学は「世界の幸せをカタチにする。」というブランドストーリーメントを掲げ、世界中の生きとし生けるものの全ての幸せを追求することを目指しています。ウェルビー

世界をキャンパスに
ウェルビーイングを実践して学ぶ

ウェルビーイング学部では、社会の幸せをデザインできる学生を輩出することを目標に、全方位的な学びを展開するカリキュラムを構築しています（7ページ図参照）。

例えば武蔵野大学の建学の精神である仏教を含む哲学的な思考と、データ分析や根拠に基づいた科学的な思考。これらの論理的思考をつかさどる左脳を働かせて、文系・理系の枠を越えたウェルビーイングの基礎を習得します。同時に、ウェルビーイング・リテラシーを鍛え、生きとし生けるものの全ての幸せを願う感性（右脳）を育みます。左右の両方の脳をバランス良く刺激しながら

ングの追求は、武蔵野大学の理念と共鳴するものだと考えています。

長年ウェルビーイングの研究を進める中で、ウェルビーイングの概念を教育現場にも広げていきたい、ウェルビーイングの専門家を育成したいと考えるようになりました。

その実現に向けて精力的に働きかけてくれたのが、西本照真学長です。西本学長の熱意と私自身の強い思いが響き合って、武蔵野大学創立100周年という節目の年に新たな学部が誕生する運びになりました。

響き合って、未来へ。



創立100周年イヤー到来！

創立記念日の5月21日から始まるこの1年は、様々な記念行事・記念事業を予定しています。皆様とともに祝い、慶びを分かち合うこの記念すべき1年間の主な企画をご紹介します。

1 メタバースキャンパス いよいよ公開

5月21日は法人の創立記念日と親鸞聖人のご生誕とともに祝う「同慶節」。このお祝いの日にあわせて、大学公式ウェブサイトがリニューアルします。同じタイミングで、メタバース上の新キャンパスの公開も予定しています。メタバース上の広場は、友人とおしゃべりしたり、一緒に勉強に励んだり、クラブ・サークル活動のミーティングを行ったりと、様々な場面で利用が可能です。

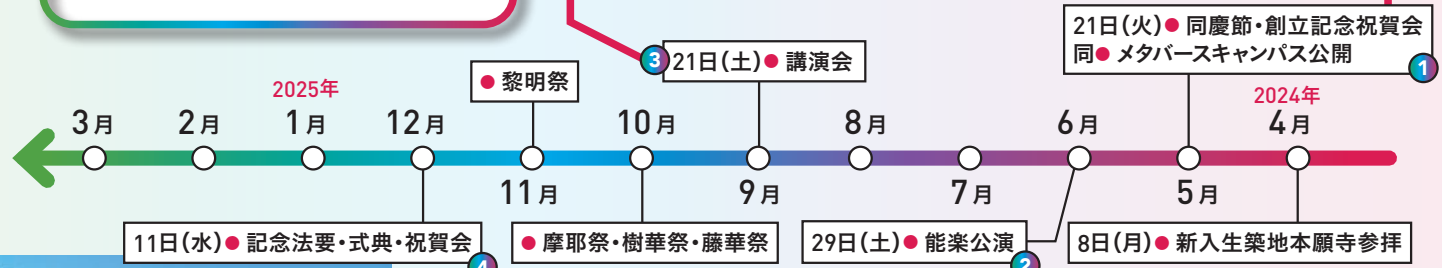
3 池上彰氏による創立100周年 記念講演会を開催

9月21日にジャーナリストの池上彰氏を講師にお招きし、講演会を開催します。会場は東京ビッグサイトの会議棟7階にある国際会議場です。

5 作文・論文・詩コンクール入賞作発表！ 「創立100周年記念アワード」 は今年度も開催

昨年7月から募集を開始した作文・論文・詩コンクールは応募総数2,105点と盛り上がりを見せ、5月頃に授賞式の開催を計画しています。また、世界の幸せをカタチにするための活動を表彰する「創立100周年記念アワード」は今年も開催予定です。

2024年度 創立100周年記念イベントカレンダー



4 記念法要・式典は12月に挙行

12月11日、創立100周年を祝う記念法要並びに記念式典を築地本願寺本堂で挙行政します。終了後は会場をお台場に移し、祝賀会も開催します。

6 創立100周年を記念した制作物が続々完成！

「響き合って、未来へ。」を表現しキャンパス内を彩っている、イラストレーターのユリコフ・カワヒロさんによる描き下ろしのイラストがオリジナルTシャツになりました！オンラインで購入可能です。

また現在、高楠順次郎博士の評伝を漫画化した『高楠順次郎 一仏教学者、世界を駆ける』の出版事業が進んでいるほか、築地本願寺の境内地に記念石碑の建立も予定しています。さらに、在校生・在学生のみなさんが制作している「スクールソング」も今後、在校生・在学生の歌声を音源として収録し様々な行事等での活用を計画しています。

Tシャツのご購入はこちらから



2 築地本願寺で能楽公演を上演

6月29日、築地本願寺本堂で能楽公演「親鸞聖人 一夢と教えー」が上演されます。演目は、舞囃子「羽衣」、狂言「悪太郎」、能「親鸞」。演者として人間国宝の友枝昭世氏ほか、野村萬斎氏、佐々木多門氏（武蔵野大学客員教授）をお招きします。なお、能「親鸞」は、武蔵野女子大学創立時に文学部教授として教鞭を執った歌人の土岐善磨先生が書かれた作品です。

その他様々なプロジェクトの進捗状況等については、創立100周年記念特設サイトのほか、学生広報チームによる取材・発信も行っています（本誌20ページ参照）。みんなでぜひ最新情報をキャッチして、この記念すべき1年を楽しみながら盛り上げていきましょう！



ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科のカリキュラム

ウェルビーイング学科のカリキュラムは、ウェルビーイングリテラシーを高め、
ウェルビーイングの専門家を育てるべく構成しています。

ウェルビーイングを実装するためには、社会学、心理学的な視野から、幸せ、生きがい、安心、福祉、健康、平和などの知見を増やすことが大切です。4年間を通じて学術領域の枠を越えた幅広い学びを習得し、自然、地域、企業、世界を意識したフィールド・スタディーズから得られた体験的知見と創造的実践力を統合。
未来をデザインするウェルビーイングデザイナーを育成・輩出することを目指しています。

図 武蔵野大学 ウェルビーイング学部 ウェルビーイング学科 カリキュラムの概要

	1年次	2年次	3年次	4年次
全学共通基礎課程 武蔵野 INITIAL	情報、外国語、教養日本語、CHP※、フィールド・スタディーズなど  武蔵野大学 AI副専攻	※CHPとは Creating Happiness Programの略。SDGs（持続可能な開発目標）の理念を学び、自ら問題意識を持って主体的に学ぶ姿勢と実践力を身に付ける本学独自の科目 副専攻 (AI 活用エキスパートコース)		
ウェルビーイングの基礎を学ぶ 基盤 科目群	建学の精神 ウェルビーイングデザイン 建学の精神、幸福論、歴史、健康、社会心理、哲学、デザイン工学など、ウェルビーイングに関わる基幹学問を俯瞰的に理解する ウェルビーイングリテラシー ポジティブ心理学、コミュニケーション、プレゼンテーション、ロジカル思考、システム思考、エコシステム、アートなど、ウェルビーイングデザインを支えるための学問を学び、社会人として活躍するための基礎力を身に付ける			
幸せな自己と世界を探究する 探究する 科目群	ゼミナール 学科において4年間で学ぶ内容を理解し、学部教育の基盤づくりを行う 自己理解 自然・環境 自然・環境プロジェクト 心理学、環境科学、生物学、哲学をベースに、自己や自然について理解するとともに、自分は世界の関係性のもとに成立していることを体験的に理解する	地域・医療・福祉 ビジネス 地域・ビジネスプロジェクト 経済学、経営学、社会学、医療・看護・福祉学、健康科学、保健学をベースに、地域、医療・福祉、ビジネス、起業などの社会活動について体験的に理解する 国際理解 海外インターンシップ 語学・多文化理解・国際経験の授業により、国際的に活躍するための知識・スキルを身に付ける		
幸せな未来を創造する 創造する 科目群		未来デザイン 創造学、イノベーション学、デザイン思考に基づき、創造的に新たな世界をデザインするスキルを身に付ける 未来デザインプロジェクト 応用ゼミ	卒業プロジェクト 卒業論文 幸せな世界をデザインしていくために、各人がテーマ（個人、自然、農・食、地域、福祉、企業、起業、製品・サービス、国際等）を設定しチャレンジする	



ら、ウェルビーイングに携わる力を総合的に身に付けられるように構成しています。

最も重視しているのが、実践的な学外学修による創造性の向上です。2年次以降は、ウェルビーイングを実践している国内外の先進地域や機関・企業を訪れて、学外で実習形式のプロジェクトに取り組みます。ウェルビーイングの先駆者たちはどのように取り組んでいるのか、自分たちの目で確かめながら、人脈と体験的知見を広げるのが狙いです。

予定している実習先は、北海道から沖縄まで全国にわたり、希望者には海外のインターンシップも用意しています。ウェルビーイング学部にとっては世界がキャンパスであり、地球全てが学びの舞台なのです。

武蔵野大学の理念をコアに 他の学部との連携の輪を広げる

ウェルビーイング学部は武蔵野大学の理念に直結している学部なので、他のどの学部とも親和性があり、連携し合える学部になるはずだと自負しています。

すでに、同じ武蔵野キャンパスにあるアントレプレナーシップ学部（EMC）とは交流を深めています。伊藤羊一学部長とは旧知の仲ですし、私もEMCの学生向けに幸福論の授業を展開しています。まだ他大学では取り組んでいない新しい学びに挑戦している先輩学部ですから、受ける刺激は大きいですね。学生たちも「ウェルビーイング学部の1期生が入学したら先輩になつてあげるよ」と、頼もしいことを言ってくれています。

自然との共存を考えるという観点から、工学部サステナビリティ学科との連携の輪も広がっています。ゆくゆくは武蔵野大学の全ての学部と連携していきたいですね。

世界一幸せになれる学部で ありたいと思っています

ウェルビーイングを体現する 世界一幸せな学生たちに期待

1940年代に誕生した「ウェルビーイング」という概念は、2020年代になつてようやく日本でも広がりつつあります。産学官でさまざまな議論が始まり、地方自治体や企業にウェルビーイングを追求する動きがみられるなど、社会全体が「ウェルビーイングとは何なのか」「ウェルビーイングを目指すにはどうしたらよいのか」と関心を寄せ始めている。

ウェルビーイングの根底にある考え方は、仏教の「自利利他円満」に通ずるものがあります。自分だけが幸せになろうとすればわがままになりますし、他の人の幸せだけを考えるのは、ただの自己犠牲です。自分が幸せでいるから、ほかの人も幸せにできると考えて、自分も周りも生かそうと働きかけること、みんなが栄える世界をつくろうとするのがウェルビーイングです。

常に自分の幸せとみんなの幸せを並行して学び実践していくウェルビーイング学部は、ここに集う学生も教員も世界一幸せになる学部になれるはずです。

学生を迎えるにあたって、教員はすでに一致団結しています。信頼できる素晴らしい先生方が集まり、開設に向けた準備段階から定期的に意見を交換し合ってきました。それぞれの個性は違えども、よりよい社会を作ろうという目標は同じ。すでにウェルビーイングな空気を醸成して、学生たちを待っています。

この学部で学生たちがどう成長していくのか、とても楽しみにしています。

PROFILE

1962年生まれ。1984年東京工業大学卒業、1986年同大学院修士課程修了。博士(工学)。キヤノン株式会社、カリフォルニア大学パークレー校客員研究員、ハーバード大学客員教授などを経て慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科教授。研究領域はウェルビーイングデザイン学、イノベーション学。2024年4月からウェルビーイング学部の学部長に就任。

シンクロナイズドスケATINGで 世界トップ10入りに



スポーツ
グローバル学部日本語コミュニケーション学科
櫻井 理子 さん

シンクロナイズドスケATINGの世界大会に出場し、13年ぶりにトップ10入りを果たしました。16人で息を合わせて滑る団体競技だからこそ表現できる、日本の良さを伝えていきたいです。

非営利の英語教室を通じて 子どもたちの教育格差をなくす！



教育支援

経営学部経営学科
長谷川 大和 さん

経済的に塾へ通うことが難しい小学生を対象とした非営利の英語教室を運営しています。非営利活動は難しい側面もありますが、子どもたちの居場所の確保と、英語学習力向上に努めていきたいです。

予備自衛官として 日本の平和を護る



地域貢献

経営学部会計ガバナンス学科
三輪 一貴 さん

陸上自衛隊で教育訓練を受け、訓練修了後、予備自衛官に任用されました。有事に招集されれば自衛官として活動します。日本の平和に貢献し、有事を未然に防ぐ抑止力になれたらと考えています。

アフリカで小学校ボランティア 教員として勤務



教育支援(海外)

教育学部教育学科 岡村 奈々 さん

大学を休学し、1年間、小学校の教員ボランティアを行いました。アフリカでの生活は当初の想像と大きく違い、自分の目で見える大切さを実感しました。帰国後は、アフリカでの経験をまとめた雑誌を制作しました。



社会で活躍する
ハピネス・
クリエイターズ

ローカル線の再建を目指し 活気ある地方を徳島から創る！



地方創生

アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科 納田 薫 さん

徳島県海陽町のローカル線、阿佐海岸鉄道の再建を目指し、イベント企画などに携わっています。海陽町に移住したこれからは、地域創生のゼミで学んだことを糧に徳島県の魅力を伝えていきます。

世界に広がり、輝く

Happiness Creators

武蔵野大学では広い視野を持って「世界の幸せとは何か」を問い、その解を導き出そうと行動をする学生や卒業生を「ハピネス・クリエイター(Happiness Creator)」と称しています。各方面で活躍しているハピネス・クリエイターたちを紹介します。

SDGsを達成するために 一人ひとりができることを発信！



スピーチコンテスト

グローバル学部 日本語コミュニケーション学科
中久木 愛実 さん

第3回 松下幸之助杯スピーチコンテストで優良賞を受賞しました。スピーチのテーマは「フードロス」。SDGs(持続可能な開発目標)の目標達成に向け、日々の生ごみの量を把握し、捨てる量を減らそうと呼び掛けました。



「世界の幸せを
カタチにする。」
ために

活動を賞して「令和5年度
創立100周年記念アワード」
に選ばれた受賞団体を
紹介します。

👑 最優秀賞 高校部門

高三紅



食品ロスをゼロにするために

全ての人が健康で利他的に行動するウェルビーイングな社会の実現を目指しています。まずは食品ロスに着目し、自校内で毎日25kg発生する食品廃棄を減らすための解決策を提案しました。

👑 最優秀賞 大学部門

グローバル学部 日本語コミュニケーション学科 神吉ゼミ



より多くの人が「善く生きる」ことができる ような共生社会の実現を目指す

食の多様性を伝えるなど数多くのプロジェクトを立ち上げて社会課題と向き合い、コミュニケーションを通じた問題解決を図っています。より多くの人が共生できる社会の実現が目標です。

👑 最優秀賞 中学部門

ゴミ収集人



身近なゴミ問題を解決するために 新宿駅周辺でゴミ収集活動

私たちに近しい身近なゴミ問題を解決するために何ができるかを考え、世界で最も利用者が多い新宿駅周辺でゴミ拾いの活動を始めました。世界の意識を変えて、ポイ捨てのゴミをなくしていきたいです。

👑 園児部門

武蔵野大学附属有明こども園



絵本を通して子どもとその家族が 幸せについて考える

園の中にある「えほんの森」には、読書アドバイザーが選んだ絵本を2000冊以上そろえています。絵本の世界を楽しみ喜怒哀楽の情緒を育みながら、幸せについて考えていく活動を行っています。

👑 園児部門

武蔵野大学附属幼稚園 チアリーディング教室、年長クラス合唱団



チアリーディングや合唱に励む園児の 姿は見守る人たちも幸せに

見ている人たちに幸せな気持ちになってもらえるように、チアリーディングダンスや合唱をたくさん練習しました。みんなの気持ちを合わせて、一緒に取り組むことの大切さを学びました。

👑 優秀賞 大学部門

PICKles



農家支援×小学生向け地域教育で 世界全体の変革を目指す

農家支援と小学生向け地域教育を掛け合わせたワークショップを開催しています。将来を担う子どもたちが笑顔になる教育活動を通じて、世界を幸せにする原動力を広げていきたいです。

👑 優秀賞 中学部門

Hey Friends



ポジティブなメッセージを発信し、 人々に希望や喜びを届けたい

僕たちは世界の幸せをカタチにするためにポジティブなメッセージを発信する音楽バンド活動をしています。明るい歌詞や音楽を通じて、人々に喜びや希望を届け、幸せを共有していきたいです。

👑 優秀賞 大学部門

MURP



世代や地域の壁を飛び越え、 多世代交流の促進を目指す

世代や地域の壁をなくしてつながれる多世代交流の促進をミッションとして、地域活性化のイベントを継続的に計画し、実施しています。地域の人がつながるきっかけづくりになればと願っています。

フェアトレードで途上国を応援 世界を変えるムーブメントを起こす



SDGs

人間科学部社会福祉学科
岡田 奈那美 さん

フェアトレードとは途上国の製品を適正な価格で継続的に購入することで、生活向上を図る仕組みです。ゼミをきっかけに活動を始め、今は仲間と団体を立ち上げて理解を広めるために注力しています。



あの夏を取り戻せ 2020・2023

コロナ禍で奪われた夏の甲子園
選手の無念を昇華させるために奮闘した学生たち

「あの夏を取り戻せ」プロジェクトの舞台裏



コロナ禍に見舞われた2020年、高校球児の憧れの大舞台「夏の甲子園」が戦後初めて中止になりました。高校最後の夏を戦えず、大きな喪失感を味わった大武優斗さんはアントレプレナーシップ学部に入學後、「あの夏を取り戻せ」プロジェクトの発足を決意。思いに賛同した仲間たちと、2023年11月に全国の元高校球児を集めた野球大会開催を実現させました。

その舞台裏には何があったのか。スタッフとして活躍したプロジェクト主要メンバーに話を聞きました。

応援してくれる人を探しながら網渡りの資金調達

学生だけで阪神甲子園球場を借り切り、全国45校の元高校球児約700人を集めて開催した野球大会。球界のスターからも支援を受け、野球界とメディアを巻き込んで、交流戦を含む3日間の様子はCS（通信衛星）デジタル放送で生中継されるなど、武蔵野大学発のビッグイベントは大成に終わりました。

しかし華々しいニュースの裏で、プロジェクトを運営する学生たちは資金と選手集めに苦しんでいました。大会開催に必要な資金は7000万円。その金額は、学生の彼らにとってあまりに大きなものでした。

「苦しかったですが、諦めるという選択肢は誰にも無かったので。壁にぶつかるたびに『何か方法があるはず』って言うと、全員が考えを巡らせ始めます。いつしかそれが、気持ちを鼓舞するための合言葉になりました」と語るのは、会計を担当していた上柳政太さん。

学部を越えてプロジェクトに参加した岡本樹立さんは「甲子園中止が決まってから、思いきりプレーできなくなった兄の様子を目の当たりにしていました。そんな選手たちのやりきれなさを埋めるために、何かできなにかと思つたのです」と、動機を語ります。

入学して3日後にはプロジェクトに参加していたという鎌下志歩さんは「大きな目標を失った先輩たちが自暴自棄になっていく姿を、いたたまれない思いで見えていました。動画サイトで偶然このプロジェクトの存在を知り、自分も参加したくなつて武蔵野大学への進学を決めました」と思いを語ります。



成し遂げられたのは
メンバーが支えてくれたおかげ

プロジェクト発起人
アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科3年
大武 優斗 さん



無謀な挑戦ができたのは
無知のパワーがあったから

統括本部管理
アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科2年
宇佐美 和貴 さん



誰かのため、と思うから
頑張れたんだと思います

統括本部管理
アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科2年
小泉 真俊 さん

「クラウドファンディングで資金を集め始めたのですが、目標額にはなかなか届かなくて。参加選手の宿泊費や交通費も負担すると発表していたのですが、雲行きが危うさに参加を辞退される高校が相次いだ時期がありました」と当時の痛みを語るのは、全体統括を担当していた宇佐美和貴さん。

出場を諦めかけた選手たちの引き留めに奔走したのは、選手管理責任者の船原凜平さん。「どうすれば参加したいと思ってくれるか考えて、全国45校42チームの代表者と連絡を取り続けました。各校の監督に連絡したり、参加の同意書を学校宛に送ったり、できることは何でもしました」と語ります。

「本来は記者会見で調達予定額を発表する前に、出納の見通しを立てておくべきでしたが、当時はそこまで



全国につながりができたのは
これからの糧になると思います

選手管理責任者
経済学部 経済学科2年
船原 凜平 さん



次の目標として、自分の地元を
応援して活性化させたいです

PR責任者
アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科1年
鎌下 志歩 さん



アントレプレナーシップ学部の
マインドをスポーツに広げたい

総務管理者
アントレプレナーシップ学部
アントレプレナーシップ学科1年
上柳 政太 さん



大事な備品管理を任されて
責任感が芽生えました

備品責任者
文学部 日本文学文化学科1年
岡本 樹立 さん



武蔵野大学附属千代田高等学院

「藤華祭」でさまざまな経験を積む

2023年度の文化祭のテーマは「華開け青春」。飲食系模擬店が復活し、多くの来校者でにぎわう2日間となった。

青春の1ページとなった 2日間の藤華祭

文化祭は高校生活の一大イベントです。武蔵野大学附属千代田高等学院が2023年10月21日と22日の2日間に開催した藤華祭も、生徒たちの思い出に残る行事となりました。

藤華祭を企画・運営するのは藤華祭実行委員会です。実行委員は1・2年の全クラスから2人ずつ選出されます。実行委員会が最初に決めたのは、今回のテーマである「華開け青春」。コロナ禍で制限のある中学・高校生活を過ごしてきた世代の文化祭に懸ける熱い思いが伝わってきます。

実行委員にとっては初めてのことが多かったですが、分からないことは先生や関係者に確認しながら作業を一つずつ進めました。実行委員会の委員長を務めた2年生の水野愛果さんは、半年にわたる準備をこう振り返ります。

「先輩のアドバイスに従って、かなり早めに準備を始めました。それでも、当日に急いで決めたこともたくさんあった。実際の流れをもう少し具体的にシミュレーションしておけばよかったと思います」

1年生のクラス出し物は、「謎解き&お化け屋敷」「キッキングスナイパー」「クラブ」「縁日」。こちらは、1万円の手当で装飾を工夫したり、お菓子のお土産を用意したりして、生徒

と来校者を楽しませてくれました。初めてのことに挑戦して一回り大きく成長

実行委員会は、新しい試みとして、フォトスポットの設置や、生徒と来校者による人気投票も行いました。閉会式で水野さんが「楽しかったですか?」と全校生徒に問いかけた

あつて、実際の流れをもう少し具体的にシミュレーションしておけばよかったと思います」

当日は、クラスの出し物や文化系クラブの展示、体育館ではダンスや音楽の発表、グラウンドではソフトテニス部の公開練習と招待試合が行われました。

体育館で開催したミニ学校説明会では、生徒のアイデアで赤いカーペット上を歩く制服ファッションショーも実施しました。

今回は生徒1人当たり5人の招待が認められ、家族や友人が数多く来



みんなで制作した正門のアーチ

校して、予想を上回るにぎわいとなりました。

準備を通じて深まった クラスの団結力

クラスの出し物では、数年ぶりに飲食系模擬店が復活。2年A組はIBコースを知ってもらおう「Bar」、2年B組は「韓国カフェ」、2年C組はアメリカ風の「Awesome Cafe」を出店しました。

教室の装飾と1日200食分の食材・食器調達の予算は5万円と決められています。どのクラスもやりくりに苦労しながら、売上目標の5万円を達成しました。とはいえ、「やりたい」を「実行」に移すにはいくつものハードルがあり、クラスをまとめて準備を進める実行委員には、さまざまな苦労がありました。

2年B組の実行委員・金井乙花さんは、「みんな意見は出してくれるのですが、それをまとめたり、役割分担や指示をしたりすることが大変でした。最終的には全員が団結し、クラスの仲も深まったと感じています」

ころ、体育館がワーツと歓声に包まれたように、藤華祭では見事に「青春の華」が開いたようです。

実行委員は、それぞれの経験を通じて、苦労に伴うやりがいと自身の成長を実感しています。「経営者を目指していますが、人をまとめるには周囲の意見を聞くことが大切だとわかりました」(下村さん)

と話します。

2年C組の実行委員・下村めりあさんは、学校外の業者とのやりとりがとて大変だったと振り返ります。「電話やメールでの連絡、スケジュール管理など、初めて『仕事』という



藤華祭実行委員長の
水野愛果さん



2年B組実行委員・
金井乙花さん



2年C組実行委員・
下村めりあさん

「リーダーの役割を担うのは初めてのことで大変でしたが、少し前進できたと感じています」(金井さん)

「自分でアイデアを出してプロデュースするのは楽しかったし、仲間や先生と連携して可能性を広げていく経験は将来に生かせると思います」と笑顔で話す水野さんは、この春、新2年生に実行委員のバトンを渡します。



生徒立案の制服ファッションショー



フォトスポット



クラスによる出店



生徒会主催の募金活動

体育館では日頃の部活の成果が発表された



バトン部による演技



ダンス部による演技



軽音楽部による演奏



吹奏楽部による演奏



入場
チケット



パンフレットの
表紙と裏表紙





1 みんな順番に生地作り 2 うまく焼けるかな 3 みんな「おいしい」と言ってくれました 4 洗い物も自分たちでやりました 5 支払いは手作りのお金で



武蔵野大学附属
幼稚園

年中組がパンケーキ屋さんを開催

年中組が、1日限りのパンケーキレストランをオープン。
お店屋さんごっこ遊びを通じて、園児は一步步成長していく。

年中組の教室が パンケーキレストランに

2023年11月21日、武蔵野大学附属幼稚園に1日限定で「パンケーキレストラン」がオープンしました。店員さんは、年中（あさがお組、さくら組、どんぐり組）の園児たちです。開店10分前、店員さんの代表数人がカラコンと鐘を鳴らしながら園内を回り、「もうすぐパンケーキレストランがオープンします」とお知らせ。開店間もなく、年少の園児たちがレストランにやって来ました。レストランの中に入ると、受付とキッチンがあり、焼きたてのパン



お席のご案内

ケーキのいい香りが漂います。年少の園児たちが、この日のために作った百円玉を受付で渡し、焼く係からパンケーキが乗ったお皿を受け取ります。その先のテーブルでジュースの種類を選ぶと、案内係がジュースの入った紙コップを持って、お客さんを隣の部屋にある客席のテーブルへ案内してくれます。

レストランで食べるパンケーキの味は格別のように、「もう1枚食べたい!」という声も聞きました。

今回のパンケーキレストランの企画前、年中の全クラスでお店屋さんごっこが大流行しました。工作で作ったドーナツなどで楽しそうに遊ぶ姿を見た先生たちが「こんなに盛り上がりつつあるなら、本物のお店屋さんをやりたいね」と意気投合し、今回の企画が実現しました。

以前は、年間行事の一つとして秋に「お店屋さんごっこ」を開催していましたが、現在は園児たちの興味が高まったときなど、臨機応変に開催する形にしています。

今回、年中組のやる気を高めたの

先生たちが、入店を一時ストップさせて、大急ぎで対応してくれたおかげで、何とか営業を続けることができました。

子どもの仕事は遊び。 遊びを通して学び、成長する

レストランの準備期間はわずか2週間でしたが、「園児たちには大きな変化が見られた」と、あさがお組担任の雲谷悠先生は話します。

「パンケーキが食べられない子がいるかもしれない」という声が出たときには、全クラスに向いて「食べられない人いますか?」と聞き取り調査をしてくれた子もいました。午前中の自由遊びの時間にお店の装飾に使う飾りを作ったり、作ったチラシをどこに貼ればみんなの目に留まるかをクラスメートと考えたり。「みんな自発的に考えて、動くようになりました。きつと、レストランを開くことが、よほどうれしかったのだと思います」

レストランを楽しむにしていたのは、年中組の園児だけではありません。はさみで紙を直線にしか切ったことのない年少組は、おそろいの百円玉を作るときに、初めて丸く切ることに挑戦。年長組では、各自が工夫してさまざまなサイズや模様の百円玉を作製しました。中には、お金

は、芋掘りで収穫したサツマイモで芋汁を作ってくれた年長組の姿でした。これを目にした年中の園児たちに、「すごい!」「私も何か作ってみたいな」という思いが芽生えたようです。

開催が決まったら、係決め。本物のレストランでは誰がどういう仕事をしているかをみんなで考え、パンケーキを焼く係、お客さんを席に案内する係、食べ終わった後のお皿を片付ける係の3つに分かれ、各自がやりたい係を選びました。

シェフの指導で パンケーキの生地作りに挑戦

この日のためにエプロンと三角巾を用意して、開店前に全員でパンケーキの生地作りに取り組みました。まず、白衣と長い帽子でシェフに扮した主事の景谷裕香先生が、店員さんたちに混ぜ方を説明します。

「じゃかじゃか混ぜると、大事な粉が飛んでなくなっちゃいます。粘土みたいにこねこねすると、べつちやんこのパンケーキになります。



コースターも手作り

を入れるお財布やポシェットまで作った園児もいました。

武蔵野大学附属幼稚園では、年齢を超えた縦割り保育活動として、年少・年中・年長の園児で構成される固定の「仲良しペア」で一緒に過ごす機会を定期的に設けています。レストランでは、パンケーキを食べ終わった年長さんが、自分のペアの年中さんに「ありがとう、おいしかったよ」と声を掛けるほほ笑ましいシーンも見られました。

子どもは遊びの中からこそ多くを学ぶ。今回のお店屋さんからは、そうした教育方針の武蔵野大学附属幼稚園で園児たちが一步步成長している様子がうかがえました。



片づけ係はテーブル拭きも担当



乳児クラスの園児たちもお祝いにかけつけた



壇上に勢ぞろいした12月が誕生日の園児たち



武蔵野大学附属
有明こども園

園児全員でお祝いした「合同誕生会」

2023年12月18日に、園児が一堂にそろう「合同誕生会」を開催。
お祝いムードの中で先生方の合奏というサプライズのプレゼントも披露され、園児たちは目を輝かせた。

幼児クラスと乳児クラスの 交流の機会を増やすために

武蔵野大学附属有明こども園では、毎月の恒例行事として、その月に誕生日を迎える幼児クラス（3歳児〜5歳児）の園児たちをみんなでお祝いする「誕生会」を開催しています。

一昨年までは密を避けるために年齢別に開催していましたが、2023年の「誕生会」は、合同で実施しました。さらに「12月生まれのお誕生



名前と年齢を自己紹介

「有明音楽隊」が 合奏をプレゼント



この日のために、先生たちは園児には内緒で「有明音楽隊」を結成。楽器が弾ける先生は自身の得意な楽器を持ち寄り、演奏に慣れていない先生は扱いやすい楽器を担当することで、多くの先生が参加しました。忙しい日常の合間をぬって、自分の担当パートを猛練習し、当日に臨みました。サプライズ合奏として披露したのは2曲です。1曲目の「あわてんぼうのサンタクロース」は子どもたちもよく知っている曲だったので、曲が流れると全員が歌い出し、かわいらしい歌声がホールに響き渡りました。

1曲目と2曲目の間には、合奏に使った楽器を紹介。有明音楽隊が使った楽器は、鈴、トライアングル、木琴のようになじみ深い楽器から、



一人ずつインタビューも受けた



さまざまな楽器で構成された「有明音楽隊」

日会」は乳児クラス（0歳児〜2歳児）の子どもたちも加わり、園児全員が一堂に会したにぎやかなイベントになりました。

今回の企画には「新たな年を迎える前に、コロナ禍でできなかったことに挑戦したい」という先生たちの



ギター、小太鼓、大太鼓、フルート、クラリネットなどの園児にとって珍しい楽器、さらには木魚のような音がする打楽器のウッドブロック、バイオリンのような形のヴィオラ、振って涼やかな音を鳴らすハンドベル、小ぶりの弦楽器のウクレレも加わって、バラエティーに富んだ構成です。一つずつ楽器を紹介しながら、音色を響かせると、子どもたちは興味深そうに聴き入っていました。

2曲目の「ジャンボリミッキー！」の合奏が始まると、リズムに合わせて体を揺らしたり、楽器を演奏する先生たちの姿を珍しそう



思いが込められています。

さらに、乳児クラスと幼児クラスが交流する機会を意図的に増やしたいという狙いもありました。

4月からは学年が上がって、今は乳児クラスにいる2歳児の子どもたちも幼児クラスに仲間入りします。幼児クラスと乳児クラスは保育室のフロアが異なるので、急な環境の変化に戸惑う子どもも出てくるでしょう。いまのうちに少しずつ時間をかけて他学年の子どもたちと交流を深めておけば、新しい環境にもなじみやすくなります。

イベントの主役となった12月生まれの子どもたちは、キラキラした手づくりの王冠を頭にかぶり、壇上に用意された椅子に着席。先生のインタビューで一人ずつ自己紹介のあいさつをすると、会場となったホールには拍手が広がります。「おめでとう」と祝福された今月の主役たちは、大勢に注目される雰囲気になんとも照れながらも、うれしそうな笑みを見せていました。

に見つめたりと、十人十色の反応を見せる園児たち。それぞれに、有明音楽隊が奏でる音色を楽しんでいました。

誕生日を祝われる側も 祝う側も楽しんだ1日

合同誕生会のリーダー役として企画の中心人物となったのが、ずずらん組担任と幼児クラスの副主任を務める小林香穂先生。隙間時間をぬって楽器練習に励んだ先生たちの労をねぎらいながら、「これまでは園全体で取り組めるイベントが少なかったため、次年度に上がる前にみんなで一緒に交流しながら楽しめる、いい機会になったと思います」と語り、イベントが無事に終わった安堵感をにじませました。

幼児主幹の片桐広栄先生は「子どもたちのテンションが上がりますが、意外にも大変だった分、先生たちにとっても思い出深い1日になったと思います」と語り、「これからもみんなで楽しめる機会を増やしていきたいですね」と、2024年の企画にも思いを巡らせました。





むらさき会の平山眞見会長から長野了法理事長に寄付目録が贈呈された(左上)、むらさき会には感謝状が授与された(左下)



武蔵野大学同窓会むらさき会

学校法人武蔵野大学創立100周年記念募金への寄付贈呈式



受贈者代表として御礼する長野理事長

武蔵野大学同窓会むらさき会から学校法人武蔵野大学創立100周年記念募金へ1億円の寄付贈呈があり、2023年10月11日に寄付贈呈式が開催されました。

むらさき会からは平山眞見会長、牛田きぬ副会長、塩塚憲江副会長、野村千尋副会長が臨席。本法人からは長野了法理事長、西本照真学長、山崎秀保・経営企画担当常務理事、落合恒・大学経営担当常務理事、横山尚佳・常務理事兼事務局長・理事長補佐が列席しました。

むらさき会の平山会長は、寄付者代表として「この寄付は2016年落合前会長在任時から積み立てを始

めたものです。むらさき会会員の皆さまの母校への思いとしてお受け取りください。これからも、発展していく武蔵野大学とともにある同窓会として、よりよい関係を作っていきたいと思います」と話されました。

卒業生からの思いの詰まった寄付の贈呈を受けた長野理事長は、むらさき会に感謝状を贈り、「むらさき会の皆さまには多大なるご寄付をいただき、誠にありがとうございます。100周年記念に向けて推進している10の記念事業プロジェクトは、たくさんの方の皆さまにご協力を賜っています。皆さまのお気持ちを受け取り、これからも気を引き締めて記念事業を進めてまいります」と御礼を述べました。また、100周年記念イヤーに向けて、今後開催が予定されている記念イベントや講演などについて紹介しました。

最後には、式に参加された皆さまそろって笑顔で記念写真を撮影し、つつがなく寄付贈呈式は終了しました。



寄付者代表のあいさつを述べる平山会長



おおきなはっぱで、うえからしたからおおかせこい！



ごはんがもうすぐできますよ♪



ハイチーズ！
おいもほりたのしかったね！



しゅっぱつしんこう！
つぎはどこいこうかな？



はっぱのおふろでひとやすみ



おちばのじゅうたん
きもちいい



みんなでなかよくおおきくなったよ

武蔵野大学附属慈光保育園

にじいろ通信

子ども達の「今」を大切に輝く未来

武蔵野大学
本法人100周年の魅力を伝える
学生記者「学生広報チーム」が
誕生しました

2023年9月より、本法人100周年の魅力を伝えるために有志が集まった学生たちが「学生広報チーム」として活動しています。

結成後、記事の執筆に関する研修会や編集会議を数回重ね、2月1日、1本目の記事となる「世界の幸せをカタチにする」活動を黎明祭で表彰！



学生広報
チームの
記事はこちら



黎明祭の1日目、11月18日に行われた「創立100周年記念アワード」を取材し、参加団体の活動にかける想いや会場の盛り上がりをお伝えしています。受賞団体(全6団体)の活動は、この後の記事でも詳しくお伝えする予定です。



取材の様子



経営学
経営学部 経営学科
穴戸 拓人 准教授



社会の不確実性が高まる中、今、多くのビジネスパーソンが、教科書的な経営学の考え方だけでは答えが見つからない課題に直面しています。経営学におけるコンフリクト・マネジメントを専門とする穴戸准教授は大学での研究活動と並行してコンサルティング・ファームなどで働き、ビジネスの現場が抱える多様な課題を解決しながら、その経験を教育や研究に結びつけています。「現場で役立つ経営学者」として活躍を続ける穴戸准教授にお話を聞きました。



建築学・建築設計
工学部 建築デザイン学科
水谷 俊博 教授



私たちの社会生活は、住宅、オフィスビル、公共施設などさまざまな建築に囲まれています。優れた建築には人を気持ちよくする力があり、そうではない建築は、逆の感覚を生んでしまうことも。研究、教育、さらに建築家としての実践を通して、人々に新しい刺激を与える建築を世に送り出すことに情熱を傾けているのが、水谷教授です。水谷教授が設計に携わり、2023年度の日本建築学会賞を受賞した「むさしのエコレポート」で、研究活動や教育についてお話を聞きました。



日本語教育学・言語教育政策
グローバル学部
日本語コミュニケーション学科
神吉 宇一 教授



日本で暮らす外国人は近年増加傾向にあり、2022年度末には、在留外国人が初めて300万人を超えました。それに伴い、学校や地域など、さまざまな場所で非母語話者（外国人）への日本語教育が行われ、そのニーズはさらに高まることが予想されます。従来の道具主義的な言語教育観に疑問を投げかけ、母語が異なる人同士が共生する社会をつくる日本語教育の在り方を追究する、神吉教授の研究を紹介します。



有明キャンパスで
「インクルーシブ・ダイアログ」
を開催しました

11月8日、有明キャンパスで「インクルーシブ・ダイアログ」を開催しました。当日は19名（学生9名、教職員7名、学外者3名）が参加し、学生は日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科、データサイエンス学科、人間科学科、社会福祉学科、言語聴覚士養成専攻科など、さまざまな専門の学生たちで、学年も学部1年生から大学院生まで多様な学生が参加しました。



幼児教育学科の学生が
「手作りおもちゃコンテスト2023」で
「HOPPA審査員賞」を受賞

教育学部幼児教育学科 今福理博准教授の発達心理学ゼミの学生4名（4年生）が「手作りおもちゃコンテスト2023」において「HOPPA審査員賞」を受賞しました。10月19日、HOPPA取締役社長の水口加緒里氏が来校し、生井亮司教授同席のもと「Award Ceremony」を開催しました。HOPPA審査員賞を受賞した「今福ゼミ now happyチーム」、1次審査通過の「チャチャチャチーム」「コドモノミカタチーム」に受賞景品が贈られました。



プレスリリースアワード2023に
おいて「エンパシー賞」を受賞

10月26日、プレスリリースアワード2023（主催：株式会社PRTIMES）において、本学が同年4月25日に発信したプレスリリースが「エンパシー賞」を受賞しました。受賞したプレスリリースはアントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科3年生の大武優斗さんが中心となって活動している「あの夏を取り戻せ」の記者発表会開催について案内したものです。



『学問の地平から』教員が語る、研究の最前線

本学の教員は、教育者であると同時に、第一線で活躍する研究者でもあります。
本企画では、多彩な教員陣へのインタビューをもとに、最新の研究と各分野の魅力を紹介していきます。



臨床心理学
通信教育部
人間科学部 人間科学科
松野 航大 講師



精神疾患などの心理臨床上の問題を抱えた人を、カウンセリングや心理療法によって支援し、改善を目指す臨床心理学。その専門家として、認知行動療法や家族療法などに関心を寄せる松野講師は、精神疾患を抱える人と家族への効果的な支援、働く人のメンタルヘルスに焦点を当て、研究に力を注いでいます。カウンセリングなどの心理臨床実践にも積極的に取り組み、多くの人のこころの健康を支援する松野講師の研究を紹介します。



行政学
法学部 政治学科
渡辺 恵子 教授



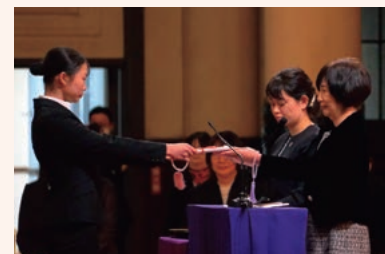
今、日本では国家・地方を合わせて約330万人以上の公務員が働いています。公務員は、安定した職業として人気を集めてきましたが、近年は中央省庁での長時間勤務など労働環境の課題が指摘され、「ブラック霞が関」という言葉も生まれました。公務員を取り巻く現状を検証し、やりがいを持って働き続けられる環境整備、客観的根拠に基づくより良い政策の実現を目指す渡辺教授の研究を紹介します。



英語教育学
教育学部 教育学科
江原 美明 教授



「学校で何年も勉強したけど、しゃべれない」。英語に対して、多くの日本人はそんな印象を持っているのではないのでしょうか。「知っているけど使えない」という状態を、どんな学び方なら解消できるのかに興味を持ち、英語の学習方略や教師教育に関する研究を続けてきたのが江原教授です。教員を志す学生への授業、現場の教員の研修を通して、学校の英語教師を支え、英語を使うための教育に力を尽くす江原教授にお話を聞きました。



第14回発願式を開催しました

2月14日、築地本願寺本堂にて第14回看護学部発願式を開催しました。発願式は学生が看護への志を誓う場であり、創立100周年を記念して初めて築地本願寺での開催となりました。これから様々な実習に臨む看護学部看護学科の2年生と、コロナ禍により中止となってしまった2022年度対象者である3年生の総勢244名が出席しました。



学生が秋田県鹿角市の企業と
ユニークな燻製商品
「燻製ラムレーズン」を開発しました

文学部日本文学文化学科4年生の長田千弘さん、工学部環境システム学科2年生の目時大翔さん、経営学部経営学科2年生の陳銀嬌さんは9月4日～13日に行われた発展FS（フィールド・スタディーズ）「起業家目線で、地域の新たな魅力を発見!」に参加し、秋田県鹿角市の燻製専門店『燻製屋 猫松』で「燻製ラムレーズン」を共同開発して3月18日より販売を開始しました。



工学部数理工学科西川研究室の
4年生濱田 一輝さんがデジタル庁
主催「e-Govデータコンテスト」で
最優秀賞を受賞しました

デジタル庁主催の「e-Gov*データコンテスト」で、工学部数理工学科西川研究室4年生の濱田一輝さんが最優秀賞を受賞し、12月10日にデジタル庁で開催された表彰式で、河野太郎デジタル大臣から表彰を受けました。
*デジタル庁が運営する行政情報のポータルサイト



建学の精神

題字
廣瀬 舟雲
教育学部
廣瀬 裕之 教授

仏教の叡智を世界に開く

——学祖・高楠順次郎博士の偉業——

武蔵野大学 ウェルビーイング学部教授・大学院仏教学研究科長 下田 正弘

武蔵野大学の創立者である高楠順次郎博士の世界的偉業に、『大正新脩大蔵経』全百巻の編纂と出版があります。「大正」時代に「新」たに「脩(修)」訂され、「大蔵経」と名付けられたこの全集は、中国、朝鮮、日本を中心とする東アジアに伝えられた仏教の存在を世に顕然と示すとともに、世界の研究者と仏教者

とは、十九世紀半ば以降、西欧の研究者によって聖典がつぎつぎに出版され、世界にその存在が知られていました。それに対して印刷本がほとんど存在せ

識基盤となりました。

大蔵経は、二千年を超える歴史を経て伝承された仏教の智慧を収める膨大な数と量におよぶ仏教聖典の集成です。スリランカや東南アジアに伝承され、その仏教の拠り所となっているパリー語の大蔵経につい



『大正新脩大蔵経』の書籍と電子データ

ず、写本の卷子や木版印刷の冊子としてさまざまな寺院に分散保存された状態にあった東アジアの漢語の大蔵経は、利用することがきわめて困難であり、そのためこの大蔵経を基盤として成立する仏教——大乘仏教——は、存在が世界に認知されていませんでした。放置しておけば大乘仏教そのものが、世界の思想界の認識から消えてしまいかねません。

高楠博士は、この大蔵経の智慧をひろく開き、世界の平和と人類の幸福を実現する思想研究の基盤とするため、近代仏教学の最先端の研究方法を駆使して諸伝統を統合し、近代的な活字印刷による書物として、世界に公開する大事業を創始します。文字数にしておよそ一億一千万もの大規模な全集出版に必要な財、知、力を結集するため、全国の仏教学者や諸宗派本山の協力を仰いで刊行会を立ち上げるとともに、出版社までを創設されました。

技術の変遷と「大蔵経」の変遷

仏教の歴史は、災害、疫病、飢饉、戦乱、弾圧など、つねに教えを滅ぼしてしまいかねない危機に直面しながらなされた、伝承のたゆまぬ努力の歴史にほかなりません。その歴史は、媒体技術の変容の歴史として現れています。紀元前四、五世紀に釈尊によって開かれた仏教は、当初二、三百年のあいだ、人のいのちそのものが媒体となり、記憶と口伝によって伝えられました。

その後、人とともに教えが滅びることないように、文字化され、写本という外の物質に転写されます。さらに、木版印刷から活字印刷へ、ついには電子媒体に変じられました。仏の智慧は、人知が生み出す技術進展の努力に沿って、あたかもその意義を顕彰するかのように、保存伝承されてきています。



増上寺所蔵の木版大蔵経

この大事業は、1924年、まさに武蔵野大学の前身である武蔵野女子学院が創立された年に開始され、10年の歳月をかけて1934年に完了しました。「宗教学」というあらたな学問がマックス・ミュラーによって創設されたのは、世界の宗教の存在を聖典の存在によって可視化した『東方聖典叢書』の出版によってでした。高楠博士の仕事は、その叢書に欠落した世界を顕在化させ、世界宗教の景色を変容させました。『大正新脩大蔵経』は、武蔵野大学と歩みをともし、出版開始から今年で百周年となります。この大蔵経は、さらに未来に向けて全巻をデジタル化して公開する「SAT大蔵経テキストデータベース事業」(代表・下田正弘)に引きつがれ、最先端の人文学のデータベースとして生まれかわりました。学祖の偉業は、さらに未来の百年に向けて思想界を支える知の基盤として、いよいよ輝きを増しています。

学校法人武蔵野大学後援会

令和6年度新入生へのお祝いメッセージ

ご入学・ご入園おめでとうございます。

ご入学おめでとうございます。ご子息・ご息女が有意義な大学生活を送れることを願っています。今後、大学生から社会人へと、視野が大きく広がっていくと思います。現在私は、仕事で海外と関わることも多いのですが、自分の経験からすると、海外と多く関わってくると、改めて日本の伝統や文化・宗教などを再認識することが多々あり、大切にしなければならぬと感じます。皆



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長
日笠山 泉

さまざま自分の専門分野だけでなく、日本の伝統や文化を大切にしてください。幼稚園、中学、高校に、入園・進学される皆さまは、恵まれた武蔵野の環境で大きく成長されるよう願っています。



学校法人武蔵野大学
後援会 会長
工藤 英生

生・生徒の課外活動への助成、教育環境の整備、奨学金給付などの取り組みにより学生、生徒、園児をバックアップします。保護者の皆さまには、後援会活動へのお力添えの程よろしくお願い申し上げます。

新入生の皆さまご入園ご入学おめでとうございます。また新入生の皆さまを深い愛情を持って支えてこられたご家族、関係者の皆さまにおかれましては心よりお祝い申し上げます。激動の時代を生きる私たちは今、さまざまな世界規模の課題に直面しており、一人ひとりが他人事ではなく自分事として捉え、解決に向け互いに協力することが求められています。新入生の皆さまには新たな仲間と切磋琢磨し、思考を深め、

新入生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。これまでの努力が実を結び、保護者の皆さまもお喜びのことと存じます。コロナが落ち着き学校生活も元に戻って一年がたとうとしています。恵まれた環境の中、皆さんには尽きない興味を持ってさまざまなことに取り組んでいってほしいと思います。失敗も貴重な経験として、自らの可能性を広げていってください。皆さまのご健康とご活躍、ま

た新しい学びの場でたくさんの人々との素晴らしい出会いがありますよう心より願っております。



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長
斉藤 朝子

学びを知識に変えるだけでなく、学びを行動へつなげていかれますことを期待しております。皆さまの成長と活躍を願います。お祝いの言葉とさせていただきます。



学校法人武蔵野大学
後援会 副会長
山本 真由

27 Musashino Journal vol.38 Spring 2024 26